

【論説】

ウズベキスタン1992年憲法制定過程における歴史的文脈の影響

**Impact of Historical Contexts in the Process of the Creation of the 1992 Constitution of
Uzbekistan**

イスマトフ・アジズ

Ismatov Aziz *

Abstract

This paper challenges widely supported domestic views which (1) associate the post-socialist constitutional founding in Uzbekistan with independent statehood claims and (2) represent the 1992 Constitution as a ‘product of popular thought.’ The author refers to archival data to show that the initial draft 1992 Constitution established a confederative model with wider sovereignty within the ‘new’ Soviet Union. A closer look at the historical momentum of the early 1990s reveals that the attempts to create such a ‘new’ union eventually failed, thus resulting in unprepared re-direction and logical shifts of constitution-making in Uzbekistan. To re-conceptualize the draft constitution, the working group applied a hybrid doctrinal approach conflating ‘old and new’ and initiated a nation-wide discussion process to attain the future constitution with legitimacy. However, the analysis reveals that mixing ‘old and new’ is dangerous because doctrines may fail to co-exist within the constitution. Furthermore, the fragmentary study of the nation-wide discussion suggests that the 1992 Constitution is more a product of a limited group of scholars working under the presidential supervision rather than a ‘product of popular thought.’ To effectively address the challenges of the proposed constitutional amendments in Uzbekistan, this paper suggests taking several steps back and re-evaluating the historical constitution-making process, particularly regarding the existing doctrinal conflict within the constitutional text.

* 名古屋大学法政国際教育協力研究センター特任講師

目次

- I. はじめに
- II. 第一次憲法草案とその起草者
- III. ウズベキスタン憲法史の転換点—新連邦条約の失敗
- IV. 新連邦条約失敗後の第二次憲法草案作成と 1992 年憲法採択
- V. おわりに

I. はじめに

ウズベキスタンでは、1924 年にウズベク・ソビエト社会主義共和国（以下、「UzSSR」という）としてソ連に参入してから独立後の今日まで、4 つの憲法が制定された。1927 年、1937 年および 1978 年の憲法は、ソ連時代に制定されたものであり、現行憲法である 1992 年ウズベキスタン共和国憲法（以下、「1992 年憲法」という）¹は、1991 年にソ連から独立した後に制定された。ソ連時代の UzSSR の 3 つの憲法は、すべてソ連憲法をモデルとし、自ら憲法を起草したのではなく、「上から与えられた憲法」であった。したがって、現行の 1992 年憲法は、ソ連が崩壊し、体制転換という大きな変革の中、初めて自ら起草を経験したものであった。

本稿は、主にウズベキスタン中央公文書館（以下、「アーカイブ」という）に保存された憲法委員会の議事録等の公文書および憲法起草過程に参加した学者へのインタビューを通じて、憲法起草者の意図および思想を明らかにし、1990 年から 1992 年にかけてソ連崩壊にともない新しく非社会主義的概念を導入するという複雑な歴史的事情の中で、ウズベキスタンが憲法起草の課題にどう取り組んだかを分析する。

本稿の第 II 章では、ソ連時代後期に機能していた最初の憲法委員会である 1990 年憲法委員会が、ソ連を維持することを盛り込んだ新連邦条約に基づいて、第一次憲法草案をどのように起草したかを考察する。第 III 章では、ソ連崩壊に向かった歴史的状況が、イスラム・カリモフ前ウズベキスタン共和国大統領の憲法起草に、どのような影響を与えたかを分析する。第 IV 章では、ソ連崩壊後、ウズベキスタンが、新しい非社会主義憲法を起草するという新たな課題にどう取り組んだのかを明らかにする。

¹ 1992 年憲法の和訳は、杉浦一考「ウズベキスタン共和国憲法（仮訳）」ICD News 第 4 号（2002 年 7 月）81-90 頁および佐藤史人「翻訳 ウズベキスタン共和国憲法」鮎京正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』（明石書店、2021 年）1187-1214 頁を参照のこと。

II. 第一次憲法草案とその起草者

1. 1990年憲法委員会の設置—連邦中央政府の強い影響

1990年3月24日、ウズベク・ソビエト社会主義共和国最高会議（Верховный Совет Узбекской Советской Социалистической Республики。以下、「UzSSR 最高会議」という）は、1989年6月より UzSSR 共産党第一書記を務めていたイスラム・カリモフ（Islam Karimov）を UzSSR 初代大統領として選出し、新憲法を起草することを決定した²。その3ヶ月後の1990年6月20日、UzSSR 最高会議は、ソ連からより多くの権限を得るが、ソ連にとどまることを前提とした上で、ウズベキスタンの主権宣言を採択し、カリモフを議長とする憲法委員会（Конституционная комиссия。以下、「1990年憲法委員会」という）を設置し³、65名のメンバーを選出した。メンバーには、UzSSR 最高会議代議員、法執行機関、ソ連軍、共産党幹部（аппаратчик）ならびに学者、労働者およびメディア代表者が含まれた。この中には、連邦中央政府から UzSSR に派遣されたスラブ系エリートおよび共産党幹部も含まれた⁴。

ソ連は連邦制であったが、実際には中央集権国家であり、基本的な政治方針は、連邦中央政府が決定しており、ロシアまたはソ連の他共和国からスラブ系エリートを各共和国に派遣し、各共和国の政治エリートを統制していた。連邦中央政府から派遣された者は UzSSR の管轄下になく、連邦中央政府にのみ直接責任を負っていた。新憲法は、ソ連を中央集権化された連邦制から、緩やかな国家連合へと再編する新連邦条約草案⁵にしたがって、起草することが期待されていた。1990年憲法委員会に連邦中央政府から派遣されたメンバーが含まれたのは、新憲法が新連邦条約の内容と合致するかを監督するためであった。

² Уразаев Ш. 3. Конституция независимого Узбекистана. Ташкент: Адолат, 1993. С. 11.

³ Об образовании Конституционной комиссии Постановление Верховного Совета Узбекской ССР [憲法委員会の設置について（UzSSR 最高会議決定）] // Центральный государственный архив Республики Узбекистан, Материалы Верховного Совета 12-го созыва, второй сессии 18–20 июня 1990 г. С. 62–67.

⁴ 具体的には、アナトリー・モルガソフ（Anatoliy Morgasov） UzSSR ソ連国家保安委員（KGB）長、ドミトリー・ウサトフ（Dmitriy Usatov） UzSSR 検事総長、ヴィチェスラフ・カマロフ（Vyacheslav Kamalov） UzSSR 内務大臣、アレクサンドル・ザハロフ（Aleksandr Zaharov） UzSSR ソ連軍の長、アナトリー・エフィモフ（Anatoliy Yefimov） UzSSR 共産党第二書記、ウラジミール・グリシュチュク（Vladimir Grishchyuk） UzSSR 共産党タシケント州第二書記、イジドール・コッホマリク（Izidor Kochmarik） UzSSR 共産党アンディジャン州第二書記である。（*Ibid.* С. 62–67.）

⁵ 1922年12月30日、ロシア、ウクライナ、ベラルーシおよびコーカサス（アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア）の代表は、連邦結成条約（以下、「1922年連邦条約」という。）に署名し、ソ連が設立された。1924年にはウズベキスタンを含む中央アジア5ヶ国も強制的に参入させられ、その後15共和国によるソ連へと変化した。1922年連邦条約は、連邦モデルを確立したが、1930年代以降、ソ連はモスクワに政治的中心を高度に集権化した国家へと変貌を始めた。カリモフは、ソ連は、実際には連邦制ではなく、すべての機能がモスクワに集中している単一の国家であると評価している。1990年、そのような中央集権的な国家構造に対する批判により、各共和国の自治を高めるために新しい連邦条約を議論することとなった。

新憲法草案には、1980年代後半からソ連で民主化を進めたペレストロイカの影響により、政治的多元主義および大統領制の導入等、自由主義的政治思想が取り入れられようとした。一方、1990年憲法委員会は、軍事、教育および社会保障の分野では、中央集権的な管理を残そうとした。最初の審議の段階では、1990年憲法委員会は、既存の1978年ウズベク・ソビエト社会主義共和国憲法（以下、「1978年憲法」という）を基盤として、部分的に改正することを提案した。しかし、1978年憲法では、連邦中央政府の各共和国に対する支配的な権限が強く、1990年憲法委員会は、政治的および経済的自由化が、社会主義を前提とした1978年憲法とは両立しないとして、全く新しい憲法を起草することを提案した。

1990年憲法委員会は、1990年6月に設置され、メンバー間で議論が行われたが、全メンバーが集まったのは、1991年4月12日の一回のみであった⁶。同日の会議では、憲法の全般的な方向性について協議され、起草を担当する32人の法律専門家によるワーキンググループ（以下、「WG」という）が設置された⁷。

2. ワーキンググループおよびサブグループの設置

1990年憲法委員会のメンバーであった数少ないUzSSRの法学者は、WGの中核を担った。WGの議長は、ソビエト国家と法学者 (Советское Государство и Право)であるシャフカット・ウラザエフ (Shavkat Urazayev) であり、ウラザエフは、憲法起草中の1990年に設置されたUzSSR憲法監督委員会⁸の委員長も務めた⁹。ソ連憲法監督委員会の委員であったソビエト行政法学者アンバル・アザムホジャエフ (Anvar Agzamkhodzhaev) は、WGの副議長を務めた¹⁰。他には、タシケント高等 (共産) 党学校 (Ташкентская Высшая Партийная Школа) のソビエト国家と法学者であるアザリヤ・ミハエロフ (Azarya Mikhailov) およびソビエト民法学者であるホジアクバル・ラクマンクロフ (Khoji-Akbar Rakhmankulov) が含まれていた。ラクマンクロフは、後にUzSSR科学アカデミー哲学・法研究所所長およびカ

⁶ 全メンバーが集まったのが1回のみであったのは、1990年憲法委員会の議事録を分析すると、新連邦条約が採択され、それにしたがって起草されるロシア新憲法をモデルにしようとしていたからであると推測される。

⁷ Центральный государственный архив Республики Узбекистан, Материалы и стенограмма первого заседания Конституционной Комиссии. – Ташкент, 1991. – С. 4-6.

⁸ UzSSR憲法監督委員会は、ソ連後期である1989年に、ソ連憲法監督委員会をモデルとして設立された違憲審査機関であり、現在の憲法裁判所の前身である。

⁹ Рахманкулов Х. Конституциямиз 20 ёшда. Ташкент : ТДЮИ, 2012. С. 22–27.

¹⁰ Хамедов И. Воспоминания о нашем дорогом учителе: научное наследие и жизненный путь академика А. Агзамходжаева // Вестник Академии Генеральной прокуратуры Республики Узбекистан. 2018. № 2. С. 20–22.

リモフ大統領の法律顧問を務めた¹¹。WGには、ソビエト国家と法学者であるハジムラット・オディコリエフ (Khadzhimurat Odilkoriev) およびソ連科学アカデミー国家と法研究所研究員であるアクマル・サイドフ (Akmal Saidov) も含まれていた。サイドフは、後の1993年ロシア憲法起草者の1人であり、ロシア憲法裁判所長官を務めたウラジーミル・トゥマノフ (Vladimir Tumanov) に師事した¹²。他には、法医学専門家であるB.ピンハソフ (B.Pinkhasov)、刑事訴訟法専門家であるG.サルキシヤンス (G.Sarkisyants)、タシケント国立大学法学部長であったM.ミルハミドフ (M.Mirkhamidov)、B.ミルババエフ (B.Mirbabaev)、E.ハキモフ (E.Khakimov) およびJ.トゥレノフ (J.Tulenov) 等の法学者や¹³、H.オリムジョノフ (H.Olimjonov)、M.テシャボエフ (M.Teshaboev)、E.ユスポフ (E.Yusupov)、S.ヨクボフ (S.Yokubov) およびE.ハリロフ (E.Halilov) 等の法律実務家も含まれていた。これらのWGメンバーは、すべてタシケント国立大学法学部所属または同学部卒業生であり、ソビエト法の専門家であった¹⁴。

ウラザエフは、WGを7つのサブグループに分割し、それぞれのサブグループは、前文または6章の起草を担当した。WGは、UzSSR最高会議が1990年6月20日に1990年憲法委員会を設置してから約1年後の1991年6月10日までに憲法草案を起草することを計画した¹⁵。指定された期日までに憲法草案を作成するために、WGが設置された1991年4月から6月の間に、WGは集中的に議論を行った。

3. 第一次憲法草案—社会主義的特徴および非社会主義的特徴の混在

1991年6月まで、WGは、第一次憲法草案を、新連邦条約草案の内容に沿って起草していた。1991年6月末の段階で、第一次憲法草案は、前文および6章により構成されていた¹⁶。その内容を詳しく見ると、社会主義的特徴と非社会主義的特徴が混在していたことがわかる。例えば、第1編「ウズベク・ソビエト社会主義共和国憲法の基礎」の第3章「権力分立」、第4章「政治的および法的多元主義」ならびに第6章「市場経済化」、ならび

¹¹ Менглиев Ш. М. Х. Р. Рахманкулов — выдающийся учёный, талантливый организатор, мудрый воспитатель // Правовая жизнь. № 4 (4). 2013. С. 184–194, 184.

¹² Ртвеладзе Э. Академик А. Х. Саидов — Штрихи к биографии // Акмаль Холматович Саидов. Библиографический указатель трудов. Ташкент : Изд-во журнала San'at. 2018. С. 5–9.

¹³ Saidov A. O'zbekiston Konstitutsiyasi tarihi. Tashkent : Tasvir, 2018. P. 194.

¹⁴ Агзамходжаев А. А., Блиндер Б. А. Юридический факультет ТашГУ. Ташкент : Укитувчи, 1980.

¹⁵ Рахманкулов Х.С. 22–27 (Ft 9).

¹⁶ Узбекистон ССР янги конституция лойхаси. Центральный государственный архив Республики Узбекистан, Материалы и стенограммы, и предложения, Фонд-69/1. – Ташкент, 1991. – 149, С. 102-03.

に第 5 編「国家権力の制度」の第 2 章「大統領制および政府」等は、自由主義な考えを反映していた。

大統領制に関しては、国民による直接選挙を導入し、選挙には、国民の過半数の参加が必要であるとされた。大統領候補者の人数には制限はないが、過半数の得票が求められた。UzSSR 最高会議によって設置された行政府である UzSSR 閣僚会議は、大統領のもとに置かれた内閣へと変わり、大統領は国家元首のみならず、行政府の長とされた。大統領は、議会の承認を得て、副大統領を任命する権限を付与された。副大統領の任務は、大統領の指示のもと、内閣を管理することであるとされたが、この「管理」が何を意味しているかは明示されておらず、副大統領の任務は曖昧であった。大統領は法案提出権および拒否権を付与された。現行憲法と異なり、大統領は議会の解散権はなく、また、議会の 3 分の 2 以上の議員により、内閣不信任案を提出することができ、第一次憲法草案での大統領の権限は現在ほど強くなかった。このように、権力分立を意識した統治構造が取り入れられた¹⁷。

一方、複数政党制および UzSSR 共産党の役割に関しては曖昧なままで、一党制または UzSSR 共産党の指導的役割に触れていないものの、「UzSSR 共産党、その他の政党、公的機関 および大衆運動は、(中略) 公の政治的および社会的プロセスに参加する」とあり、Uz SSR 共産党が特記されていた¹⁸。これは、1990 年 3 月に行われた 1977 年ソ連憲法改正と類似している。この改正では、1977 年ソ連憲法第 6 条のソ連共産党の指導的役割が削除されるとともに、大統領職が創設された。ソ連大統領には、ゴルバチョフが就任したが、ソ連共産党書記長の地位も保持していた¹⁹。ソ連のみならず各共和国においても、第一書記が大統領に就任することにより、共産党が政治の中心であり続けると考えられた。UzSSR において、カリモフも、1990 年 3 月、UzSSR 共産党第一書記の地位を保持したまま UzSSR 大統領に就任した。第一次草案の段階では、カリモフは、大統領を支える枠組がまだ形成されていなかったため、既存の UzSSR 共産党の枠組を使おうとしていた²⁰。

また、第 1 章第 8 節「ソ連およびの国際社会の一員としてのウズベク・ソビエト社会主義共和国」では、ウズベキスタンがソ連内の一共和国として継続されることが明確化されていた。UzSSR に大きな影響をおよぼす連邦レベルの議会であるソ連人民代議員大会 (Съезд народных депутатов) が残ることが想定されたが、その権限は同節では明確に示されていなかった。したがって、強大な連邦レベルの議会と、共和国レベルの立法府および

¹⁷ *Ibid*, V. булим (2, 3) С. 102-03.

¹⁸ V. булим (1) С. 102-03.

¹⁹ Борисов. Н. А. Президентство на Постсоветском Пространстве: Процессы Генезиса и Трансформаций, М.: РГГУ, 2018. - 30.

²⁰ Вернуть доверие людей: – наш собеседник член Политбюро ЦК КПСС И. А. Каримов// Правда 1991 г. 21 Июля, С. 2.

行政府である UzSSR 最高会議および大統領等との間で、権限の衝突が生じることが想定された²¹。

所有の規定に関しては、第 3 編第 1 章で私的所有を導入するものの、「ソビエト市民の私有財産」とされ、ソビエト市民のみが私的所有権を認められ、西洋自由主義の私的所有の概念とは異なった。

その後、第一次憲法草案は、1991 年のモスクワにおけるクーデターにより、大きな転換を迎えた。ウズベキスタンは、1991 年 8 月 31 日に独立を宣言し、ウズベキスタン共和国として独立した 2 ヶ月後の 1991 年 11 月までに、WG は憲法の最終草案を作成し、1990 年憲法委員会の議長を務めていたカリモフ大統領に提出した。カリモフは、草案受領後、同草案を拒否し、WG に対して、社会主義的な要素を排除し、草案を大幅に修正するよう求めた。この段階まで、カリモフは、WG の憲法起草過程を注意深く監督し、草案を定期的に確認し、反対意見を述べたことはなかった。なぜ、1991 年末の時点で、カリモフが第一次憲法草案に関して突然考えを変更し、草案を大幅に修正することにしたのだろうか。アーカイブに保存された公文書には、これに対する明確な回答をまとめて直接言及するものはないが、次章で 1990 年から 1991 年までの歴史を振り返り、憲法起草過程におけるカリモフの役割を分析することを通じて、この質問に対する回答を検討する。

III. ウズベキスタン憲法史の転換点—新連邦条約の失敗

1. 共和国による主権の要求：カリモフの初期の提案

ペレストロイカは行き詰まり、複合的な改革の必要性が高まり、1990 年 6 月に新たな連邦制をめざした新連邦条約を提案する契機となったが、アルメニア、ジョージア、モルドバおよびバルト三国（ラトビア、リトアニア、エストニア）は、そもそも新連邦条約そのものに反対し、議論に参加しなかった。新連邦条約に関する 1990 年 6 月の会議において、カリモフは、「我々（UzSSR）は、（ソ連の中で）限定的な主権しかなく、この状態を改善しなければならない。（連邦内の）各共和国は、相互に条約を締結することを認められなければならない。連邦の将来で最も適した形態は、国家連合（Конфедерация）である。

²¹ Центральный государственный архив Республики Узбекистан, Материалы и стенограммы, и предложения, Фонд-69/1. – Ташкент, 1991. – 149, С. 135-136.

22」と主張した。カリモフの主張にもかかわらず、1990年11月の時点での新連邦条約の最初の草案は、依然として、各共和国の主権は限定的であり、ソ連人民代議員大会において、各共和国からの代議員の権限は強くなかった。つまり、ソ連大統領には包括的な監督権限があり、ソ連人民代議員大会における各共和国の代表の権限は弱かった。強力に中央集権化された形を再現したこの草案に対する否定的な反応として、カリモフは「今、私は新連邦条約がすぐに実現するとは考えていない。連邦レベルの機関は、平等の原則に基づいて形成されるべきであり、新連邦条約のソ連人民代議員大会は合理的ではない²³。(連邦内の)各共和国は、ソ連人民代議員大会で平等な代表権を持たなければならない。²⁴」と主張した。新連邦条約の議論に参加した他の8つの共和国の指導者も同様に、新連邦条約は、中央集権的であり、各共和国のさらなる主権の拡大およびソ連人民代議員大会へ各共和国から多くの代議員を送ることを主張し、新連邦条約草案を拒否した。

1990年6月12日、ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国が主権を宣言した²⁵。1977年ソ連憲法では各共和国は主権国家であると規定されていたが、この主権宣言は、ロシアの主権を再確認するものであった。主権宣言を行なったのはロシアだけではなく、1980年代末、新連邦条約の議論に参加していなかったバルト三国から始まった。ソ連憲法では、各共和国は主権国家であると規定されたものの、実際にはカリモフが評価した通り、ソ連は単一の国家であると考えられており、各々の主権を主張するために、1990年12月までに、ソ連内のすべての共和国は主権宣言を行なった。この主権宣言の動きは、1990年6月のロシアによる主権宣言によって加速され、UzSSRを含む多くのソ連共和国は、1990年6月から8月の間に、主権宣言を行った²⁶。

エリツィン大統領は、ロシアの主権宣言により、ロシアに対する連邦中央政府の政治的影響を弱体化させる狙いがあった²⁷。ゴルバチョフによると、ロシアが連邦中央政府の管轄から離れる理由の一つは、ソ連のゴルバチョフ大統領とロシアのエリツィン大統領との間

22 АГФ. Фонд Горбачёва 10, 1990, опись 2 (1990年6月12日).

23 これが意味するのは、カリモフは、ソ連人民代議員大会には、人口にかかわらず、各共和国から同数の代議員が送られており、不平等であると指摘したことである。

24 10, 1990, опись 2 (1990年11月2日) (Ft. 22).

25 Декларация о государственном суверенитете Российской Советской Федеративной Социалистической Республики [ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国の国家主権に関する宣言] (1990年6月12日).

26 バルト三国に続き、アゼルバイジャンが1989年10月、ジョージアが1990年5月に主権宣言を行なった。1990年6月12日のロシアの主権宣言に続き、1990年6月から8月の間に、ウズベキスタン、モルドバ、ウクライナ、ベラルーシ、トルクメニスタン、タジキスタンおよびアルメニアが主権宣言を行い、少し遅れてカザフスタンは1990年10月、キルギスは1990年12月に主権宣言を行なった。

27 Бурков В.Г., Мещеряков К.Е., Шамгунов Р.Г. Содружество Независимых Государств как средство «цивилизованного развода»: к вопросам о распаде СССР и создании СНГ. *Евразийская Интеграция: экономика, право, политика*. 2016. (1) С.100.

の政治的対立であった²⁸。1990年10月、ロシアは、「ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国領土内のソ連の機関の行為に関する法律（О действии актов органов Союза ССР на территории РСФСР）」を公布し、ロシアの法律が連邦レベルの法律よりも優先するとされた²⁹。ソ連で最強の共和国であったロシアが、このように自国の法律を連邦レベルのものより優先するとしたことにより、UzSSRを含む他の共和国が同様に権限の拡大を主張する契機となった。

UzSSRは、1990年6月20日に主権宣言を行なった。UzSSR主権宣言は、Uz SSR最高会議の非共産党員によって起草されたが、当初、独立宣言という名称で起草された。これに対して、カリモフ大統領は、連邦内にとどまることを目指していたため、当初の草案に対して懐疑的であった。議論の末、草案が修正され、1990年6月20日、UzSSR最高会議は、UzSSR主権宣言を採択し、ソ連最高会議の決定は、UzSSR最高会議で承認された場合のみに適用されるとされた³⁰。

主権および各共和国への権限の拡大の主張が高まる中、ロシアを含む新連邦条約の議論に加わっていたすべての共和国は、カリモフが提案した国家連合の創設をめざした新連邦条約のアイディアを支持した。9共和国の間で政治交渉をした結果、1991年初頭に発表された第二次新連邦条約草案は、より多くの権限を各共和国に付与し、外交、防衛および教育等の分野においてのみ、ソ連大統領が中央集権的な役割を維持した。カリモフを含む一部の共和国の指導者は、この草案を支持したが、ウクライナ等の他の指導者は、完全な独立を目指していたため、この交渉には積極的に参加しなかった³¹。

2. 新連邦条約に対するカリモフの支持と国民投票の結果

新連邦条約草案に対するソ連国民からの支持と正当性を得るために、1991年3月17日、ソ連のゴルバチョフ大統領は、UzSSRを含む9つの共和国において、ソ連を維持するものの、より多くの権限を各共和国に付与する新しい連邦制を導入することを盛り込んだ新連邦条約の国民投票を実施した。公式統計によると、国民投票に参加した9共和国全体では、

²⁸ Горбачев. М.С. Горбачёв-Ельцин, 1500 дней политического противостояния. Терра: 1992; Воротников. В. В. Отделение России от СССР. : Алгоритм: 2017.

²⁹ О действии актов органов Союза ССР на территории РСФСР [ロシア・ソビエト連邦社会主義共和国領土内のソ連の機関の行為に関する法律]: Закон РСФСР, (1990年10月24日). 263-1 // Ведомости Съезда народных депутатов РСФСР и Верховного Совета РСФСР. 1990. 21. Ст. 237.

³⁰ Борисов. Н. А. Президентство на Постсоветском Пространстве: Процессы Генезиса и Трансформаций, М.: РГГУ, 2018. – 27, 37. Бабаджанов. Ш. Исполнилось 28 лет со дня принятия Декларации о суверенитете Узбекистана. Власти снова проигнорировали эту дату. Озодлик. 2018年6月21日)

³¹ Белая книга: Документы и факты о политике М.С. Горбачева по реформированию и сохранению многонационального государства / Союз можно было сохранить. Сост. А.Б. Вебер и др. – 2-е изд., перераб. и доп. – М.: АСТ, 2007. - 370, 2007.

76.4パーセントが新連邦条約に賛成した³²。カリモフは、UzSSR 最高会議および UzSSR 市民に対して、新連邦条約に賛成するよう、積極的に説得していた³³。UzSSR では、国民投票の際、「新しい連邦制を導入したソ連に、ウズベキスタンが、“独立し平等な”共和国として残留することに同意するか」という追加質問も行ったが、この質問は「“独立し平等な”共和国」という点を強調し、肯定する回答を誘導するものであった。ペレストロイカ以降、他の共和国と同様に、ウズベキスタンにおいても、民族主義的および分離主義的な世論の高まりがあったが、国民投票に参加した約 900 万人のうち、93.9 パーセントが、追加質問に同意した³⁴。

国民投票での新連邦条約の賛成を受けて、新連邦条約の起草者は、国名をソビエト社会主義共和国連邦から、ソビエト主権共和国連邦（Союз Советских Суверенных Государств）に変更し、最終草案を確定し、1991年6月21日にその最終草案をメディアに発表した³⁵。同月、UzSSR 最高会議は、新連邦条約を承認し、カリモフ大統領率いる UzSSR 代表団は、新連邦条約に署名するためにモスクワを訪問することとなった。新連邦条約の署名日は、1991年8月20日に予定されていた。

3. クーデターによるカリモフの路線変更

新連邦条約に署名するために、カリモフを除く UzSSR 代表団は、署名予定日前日の 1991 年 8 月 19 日、モスクワに到着した。カリモフは、署名日当日である 8 月 20 日にモスクワに到着する予定であった。8 月 19 日、ソ連の中央集権的な形態を維持することを支持した保守派グループが、新連邦条約に反対し、クリミアで休暇中だったゴルバチョフ大統領を軟禁し、モスクワでクーデターを起こした。カリモフは、インド訪問中にクーデターの発生を知り、8 月 19 日、緊急にタシケントに戻った。クーデターを起こした保守派グループは、国家非常事態委員会を結成し、全国的な非常事態宣言を発令した。しかし、このクーデターは、市民による抵抗のため、2 日後に失敗に終わったが、新連邦条約の署名式は阻止されたため、各共和国は、ソ連への不信感および主権獲得の主張をさらに強めることとなった。

³² Формула распада: 25 лет назад советские граждане на референдуме решали судьбу СССР, (TASS), <https://tass.ru/spec/ussr-referendum> (2022 年 1 月 4 日最終アクセス)。

³³ Ислам Каримов: от секретаря ЦК Компартии до главы независимого Узбекистана, (RIA), <https://ria.ru/20160902/1475825222.html> (2021 年 11 月 22 日最終アクセス)

³⁴ Жураев, Н., Файзуллаев, Т., Мустакил Узбекистон Тарихи: тулдирилган, кайта нашр. – Т: Гафур Гулом, 2009, С. 29.

³⁵ Договор о Союзе Суверенных Государств // Известия, 152 /23418 (1991 年 6 月 21 日)。

クーデターは失敗に終わったため、新連邦条約に関する交渉が再開されたが、その交渉は停滞した。クーデター後、カリモフは、ソ連の連邦制のあり方に関して、大きく見解を変更し、憲法起草にも大きな影響を与えた³⁶。クーデター後も、カリモフは依然として新連邦条約を締結し、ソ連を維持することを望んでいたが、連邦中央政府から政治面でさらに大きな権限を得ることを求めた。1991年8月23日、新連邦条約の交渉が再開された際、カリモフを含む9つの共和国の指導者は、新連邦条約の早期採択の必要性を強調した。しかし、8月25日、カリモフは、公安、警察、検察等の法執行機関およびUzSSR内に駐留するソ連軍を連邦中央政府の管轄から外し、大統領令によりUzSSRの管轄へと移行させた³⁷。言い換えれば、カリモフは政治的混乱に便乗し、連邦中央政府の厳しい監督下にあった法執行機関をUzSSRの管轄下に置くための第一歩を踏み出した³⁸。続いて8月27日、UzSSRの国旗を変更し、翌28日には、ソ連共通の国歌を廃止し、UzSSR独自の国歌を制定する命令を出した³⁹。

1991年8月31日、カリモフはウズベキスタンの独立を宣言し、1991年9月1日を独立記念日とした。独立宣言は、UzSSR最高会議により、1991年ウズベキスタン共和国国家的独立の基本原則に関する法律（Закон об Основах Государственной Независимости Республики Узбекистан）という名称で出され⁴⁰、これにより、国名は、UzSSRからウズベキスタン共和国へと変更された。その後、カリモフは国際社会に対して、ウズベキスタンを新たに独

³⁶ カリモフがどの段階でクーデターを批判したかは、評価がわかれている。サイドフによれば、クーデターが発生した当日の8月19日、カリモフがタシケントに戻った直後にUzSSR内に非常事態宣言を発令することを拒否し、すぐにクーデターを批判した（Saidov A. O'zbekiston Konstitutsiyasi tarihi. Tashkent: Tasvir, 2018. B. 210-213）。一方、後の報道によれば、カリモフは当初クーデターを支持したが、クーデターが失敗したことが数日で明らかになると、クーデターは非合法であると主張した、としている（20 лет ГКЧП: Центральнoазиатский ракурс, <https://www.fergananews.com/articles/7049> (2021年11月20日最終アクセス)。カリモフは、クーデター的首謀者が逮捕された後、8月21日にクーデターは非合法であると宣言する大統領令を発令した、という記録もある（Постановление Президента Узбекской ССР касательно Августовских событий [8月事件に関するUzSSR大統領令] (1991年8月21日)）。

³⁷ Указ Президента Республики Узбекистан от 25 августа 1991 г. // Ведомости Верховного Совета Республики Узбекистан. 1991. № 10. С. 21–22 (1991年8月25日)。

³⁸ さらに、独立直後の1991年9月26日には、カリモフは、ウズベキスタン共和国最高会議からの承認を得ず、大統領令により、公安および警察をカリモフの管轄下に置いた。この大統領令は、ウズベキスタンにおける超大統領制を確立する第一歩となった。

³⁹ Узбекистон Олий Кенгаши Раёсатининг Карори // Совет Узбекистони, 1991, 29 август (1991年8月29日)。

⁴⁰ Закон Республики Узбекистан об Основах Государственной Независимости Республики Узбекистан [ウズベキスタン共和国国家的独立の基本原則に関する法律], (Ведомости Верховного Совета Республики Узбекистан, 1991 г., № 11, ст. 246) // Материалы Верховного Совета 12-го созыва, внеочередных шестой и седьмой сессий прошедших 30 - 31 Августа 1991 г. Фонд – Р-2524, Н.66 7337, С. 4. (1991年8月30-31日)。

立した国家として公式に認めるよう要請した⁴¹。皮肉なことに、最初にウズベキスタンの独立を認めたのは、ウズベキスタンをソ連に併合したロシアであった。

カリモフは、独立を宣言した後も、ソ連からの離脱を正式に宣言しておらず、1991年のウズベキスタン共和国国家独立の基本に関する法律も、ソ連からの離脱に関しては言及していなかった。さらに、1991年10月11日、カリモフは、依然として、新連邦条約の交渉過程に加わった。カリモフは、この交渉過程で、「連邦内での完全な政治的独立を求めますが、経済的連携の維持」を要求した⁴²。新連邦条約草案では、国民投票後に、国名を「ソビエト社会主義共和国連邦」から「ソビエト主権共和国連邦」とし、「社会主義」という文言を削除し、各共和国の権限を拡大したことを示すために「主権」という文言を入れた。クーデター後の1991年11月1日の交渉で、「ソビエト」を削除し、「主権共和国連邦」という国名に変更し、連邦中央政府による中央集権的な体制を否定したことを強調した⁴³。1991年11月4日までに、カリモフは連邦内の経済統合に関して深刻な懸念を示した。カリモフは、新連邦条約に、共和国間の経済的相互作用の詳細を規定しない限り、条約を署名することができないと主張した⁴⁴。ソ連では、 Gosplan (ソ連国家計画委員会、 Государственный комитет по планированию) が、計画経済を実行するために、ソ連全体の生産計画を決定し、各共和国はそれにしたがって生産の役割分担がなされていた。カリモフは、ソ連内の既存の経済的連携が連邦を維持するための基礎として機能する必要があるものの、既存の生産計画は、各共和国の状況に応じたものではないため⁴⁵、Gosplanのような中央集権的な組織を廃止し、各共和国の意見を取り入れる新しいモデルを導入することを最終草案に明確に記載する必要があると主張した。1991年11月25日、ゴルバチョフから署名への激しい圧力があつたにもかかわらず、カリモフはウズベキスタン共和国最高会議での議論の必要性を訴え、新連邦条約への署名を拒否した⁴⁶。カリモフは、条約への署名そのものを拒否したのではなく、自身が主張した経済的連携に関する条項が盛り込ま

41 Постановление Верховного Совета Республики Узбекистан от 31-го августа 1991 г. О государственной независимости// Голос Узбекистана. 1991 г. 5 сентября. (1991年8月31日) .

42 Белая книга: Документы и факты о политике М.С. Горбачева по реформированию и сохранению многонационального государства / Союз можно было сохранить. Сост. А.Б. Вебер и др. – 2-е изд., перераб. и доп. – М.: АСТ, 2007. - 370, 20077; Demokratizatsia (Демократизация). The Journal of Post-Soviet Democratization, volume II, number 2, Spring 1994, p. 212-221.

43 Архив Горбачев Фонда, Белая книга: Документы и факты о политике М.С. Горбачева по реформированию и сохранению многонационального государства / Союз можно было сохранить. Сост. А.Б. Вебер и др. – 2-е изд., перераб. и доп. – М.: АСТ, 2007. С - 370

44 В Политбюро ЦК КПСС... : По записям Анатолия Черняева, Вадима Медведева, Георгия Шахназарова (1985-1991) / Сост. А. Черняев (рук. проекта), А. Вебер, В. Медведев ; Горбачев-Фонд. – М. : Альпина Бизнес Букс, 2006. С – 714-717.

45 例えば、ウズベキスタンは、Gosplanにより、綿花の生産を行っていたが、現実性のない生産量を要求され、モノカルチャー経済となったことを、カリモフは批判している。

46 АГФ. Фонд 10 (Ft. 22).

れていなかったため、ウズベキスタン共和国最高会議と草案を交渉することにより、署名に対する正当性を確保することを意図していた。

4. ソ連崩壊と想定していなかったウズベキスタンの独立

1991年12月8日、スラブ系の共和国の3人の指導者であるロシアのボリス・エリツィン (Boris Yeltsin)、ウクライナのレオニード・クラフチュク (Leonid Kravchuk) およびベラルーシのスタニスラフ・シュシュケビッチ (Stanislav Shushkevich) が、ベラルーシで秘密会議を開催し、新連邦条約とは全く別の独立国家共同体の設立に関する協定 (Соглашение о создании Содружества Независимых Государств) を正式に締結し、ソ連の消滅と独立国家共同体 (CIS) の創設を宣言した⁴⁷。この宣言は、ロシアを含むソ連の3つの強大な共和国が、カリモフが主張した各共和国間の経済連携も廃止し、完全な主権国家を選択したため、新連邦条約の交渉の継続は不可能となった。これら3共和国は、政治および経済に対する連邦中央政府による監督とならびにソ連の継続を望んでいなかった。カリモフを含む中央アジアの指導者は、ベラルーシでのこの会議に招待されておらず⁴⁸、カリモフらは、3人のスラブ系指導者の予想外の行動を批判した。言い換えれば、ソ連の崩壊という重要な決定は、中央アジアの指導者との協議および承認なしに行われたのである。

このソ連崩壊に関わるウズベキスタンの独立の歴史には、いくつか特筆すべきことがある。第一に、1990年代に UzSSR で出現した主権の主張は、市民による要求の結果ではなく、ソ連消滅という外からの圧力によるものであった。対照的に、バルト三国およびジョージアでは、市民および政治指導者が、ソ連からの独立の主な原動力となった。1990年6月、UzSSR は国家主権に関する宣言を採択したが、この宣言は、法的拘束力を有するものではなく、単なる象徴的な政治文書であり、実際には、完全に独立した主権国家となる意図はなかった。UzSSR の主権の主張は、ロシアおよび他の共和国 (バルト諸国およびウクライナ) における主権宣言の影響を受け、市民からの要求ではなく、政治指導者によるトップダウンの政治的決定として現れた。1990年8月には、独立宣言を行い、大統領制を採用し、新しい憲法の起草を開始したが、これはロシアで同様の出来事があったからである。

第二に、カリモフは、当初、新連邦条約起草過程に積極的に参加し、1991年3月の新連邦条約の是非を問う国民投票で賛成するよう推進したが、どのような形で連邦制が継続さ

⁴⁷ Соглашения о создании Содружества Независимых Государств [独立国家共同体の設立に関する協定] (СНГ) 8 Декабря 1991. (1991年12月8日) .

⁴⁸ カザフスタンのナザルバエフ大統領 (当時) は、同日、モスクワでゴルバチョフと新連邦条約に関する会議をしていたが、ベラルーシでの秘密会議にも、中央アジアの代表として秘密会議開催中に招待を受けたが、参加しなかった。

れるかにかかわらず、ウズベキスタンが連邦内にとどまることを望んでいた。前章で述べたように、多くの社会主義的特徴を残した新憲法起草過程を見てみると、モスクワでクーデターが発生する以前は、カリモフが連邦にとどまり、社会主義を維持することをめざしていたことがわかる。

第三に、1991年8月のクーデター後、1991年12月にソ連が正式に崩壊するまで、カリモフは依然として新連邦条約がめざした連邦内に留まることを望んでいた。カリモフは、1991年8月31日に独立を宣言したが、その後も新連邦条約により、連邦内の共和国間の経済的連携を維持する可能性を期待していた。しかし、モスクワでのクーデターを受けて、1991年8月から11月の4ヶ月という非常に短期間に、ウズベキスタンの将来の方向性に関するカリモフの見解が徐々に変化していった。その時代のカリモフの決定の多くは、政治的独立を目指すものであった。一方、カリモフは、ソ連からの即時分離と数十年にわたって発展した共和国間の緊密な経済連携を断絶することには反対した。1991年12月のソ連の正式な崩壊により、最終的にウズベキスタンを含む中央アジアの共和国は、想定外にソ連から排除され、独立した。

カリモフは、なぜ1991年11月の第一次憲法草案から、突然考えを変更し、憲法草案を完全に修正することにしたのか。第一次憲法草案は、新しい連邦制へ変更の可能性が残されていたソ連後期に起草されたため、ソ連型立憲主義および連邦内の共和国としての要素を含んでいた。第一次憲法草案は、ウズベキスタンが正式な独立と新たな連邦制のもとでソ連に残留することとの間で揺れ動いている時代に作られた。結局、1991年12月に第一次憲法草案を精査した段階で、新連邦条約による新しい連邦制への移行の希望は消えたため、カリモフは、第一次草案を完全に拒否し、新たなポスト社会主義国家建設に照らした憲法起草の道を歩み始めた。

IV. 新連邦条約失敗後の第二次憲法草案作成と1992年憲法採択

1. 1991年8月の独立による暫定憲法

1991年末以降、カリモフは、独立後のウズベキスタンの新しい国家建設を開始した。カリモフは、段階的ではあるが、集中的にソビエト国家モデルからの離脱をめざした。例えば、カリモフは「ソビエト全体主義システムによる1世紀にわたる孤立を克服し、自由市

場に向かう」⁴⁹ために、1978年憲法とは全く異なる新しい憲法を起草する重要性を強調した。特に、カリモフは、ウズベキスタンの新憲法は、私有財産の保護および自由競争といった市場経済の原則を導入する必要があると主張した。この点で、ウズベキスタン民法学者の第一人者であるオマンボイ・オキュロフ（Omanboy Okyulov）は、「社会主義法が何十年もの間続いた後、私有財産の概念の導入には、大きな困難をとまなうだろう」と述べた。オキュロフは、「全国家所有であった土地および資源に対する私的所有の拡大、国有企業の民営化および投資法の制定は、激しい論争となり、数十年といった長い年月を必要とする可能性がある」とも主張した。それに対して、カリモフは、「背後にあるすべての橋は焼失し、ウズベキスタンは後戻りする方法はなく、独自の国家建設を進まなければならない」と述べた。⁵⁰つまり、カリモフは、私的所有、自由競争およびヒト・モノの自由な移動等、ウズベキスタンがこれまで経験したことのない新たな概念を導入する準備ができていたことを示した。これらの自由主義的な概念は、多くの先進国が導入に成功していたため、カリモフはWGに、「自由市場、大統領制、複数政党制、民主主義および人権等の非社会主義型立憲主義国の憲法を分析しながら⁵¹」、憲法を再起草するよう求めた。新憲法制定までの間、カリモフは独立宣言である1991年のウズベキスタン共和国の国家的独立の基本原則に関する法律を、暫定憲法とした⁵²。この法律は、17条のみで構成され、非常に短いものの、国家継承の原則を示すいくつかの重要な条項が含まれていた。例えば、第15条は、ウズベキスタン領土内に居住する市民に対して、新たにウズベキスタン市民権を付与することを規定した。また、第17条では、国境を確定し、第6条では、ウズベキスタン領土内に駐留するソ連軍に関わる事項を独立して決定することとした。

2. 第二次憲法草案起草における西側自由主義憲法の参照と伝統主義的価値観の復古

カリモフの考えにしたがい、1991年11月の第一次憲法草案を完全に修正するために、WGは1992年初頭から、西側自由主義諸国の憲法を参照することとした。上述のように、WGメンバーのすべては、社会主義法のもとで教育を受けたソビエトの法律家であり、メンバーの多くは、西側自由主義憲法に精通していなかった。自由主義理論を理解するメンバーもわずかにいたが、それでも実践的な知識と経験はなかった。最初の段階として、WGは、アメリカおよびフランスの憲法を参照し、両国の法律家は、WGに対して自国の

49 Каримов И. А. Правовая гарантия нашего великого будущего. Ташкент : Шарк, 1993. С. 1–2.

50 筆者による Omanboy Okyulov に対するインタビュー（2021年12月）。

51 Рахманкулов Х. С. 22–27. (Ft. 9)

52 Saidov A. P. 210-213. (Ft. 13)

経験にもとづき助言し、憲法起草を支援した⁵³。WG は、特に、アメリカおよびフランスの大統領制に注目し⁵⁴、フランスの半大統領制モデルを参照することとし、カリモフは、アメリカのような大統領の弾劾制度を設けず、副大統領を置かないこととした。その後、WG は、日本、ドイツ、カナダ、ポルトガル、イタリア、スウェーデンおよびスペイン等の憲法も参照した。人権に関する章の起草に関しては、世界人権宣言を参照した⁵⁵。国連および欧州安全保障協力機構（OSCE）は、憲法草案が国際標準に合致しているか鑑定した⁵⁶。

西側自由主義憲法を参照した結果、WG は、ソビエト憲法には存在しなかった民主主義、自然権および議会主義の導入を検討した。WG およびカリモフは、民主主義、政治的多元主義および人権といった西側諸国の憲法上の概念を学び、これらの概念をどのようにウズベキスタンに移植するかという課題に直面した。1991年以降の国家建設過程で、カリモフおよび国内の政治エリートらは、ソ連時代以前の伝統的価値への復古を目指しており、個人主義的な人権文化および民主主義的価値等の西洋起源の概念が、ウズベキスタンの共同体主義、宗教的価値観および文化的特徴と共存することは困難であると考えた。したがって、憲法起草過程を見てみると、カリモフは、伝統主義的価値観を復活させることと反する点については、西側諸国の概念を導入することを拒否した。例えば、カリモフは、円滑に市場経済へと移行し、経済発展を遂げ、不安定な中央アジアの平和と安全を維持するためには、ソ連時代以前のような強力な国家指導者が必要であるとして、カリモフ自身の絶対的支配の必要性を正当化した⁵⁷。カリモフは、裁判官が大統領に対する弾劾手続を開始できる権力分立および違憲審査等の西洋起源の概念に対して懐疑的であり、憲法の最終草案では、大統領権限を拡大した⁵⁸。

一方、カリモフは自身の権限と抵触しない部分に関しては、民主主義、政治的多元主義、人権等の西洋起源の概念を“形式的”に導入することには積極的であった。それは、いわゆる「西側民主主義クラブ」の一員であることを示すことにより、海外からの投資を促進するという象徴的な意味合いがあった。したがって、WG は、可能な限り、憲法草案を、西側諸国のモデルに近づけるために、これらの諸国の憲法概念を外見上導入することを試みた。同時に、WG は、ウズベキスタンの伝統的要素を現代の状況に合わせて再解釈して

53 Исламходжаев Х.С. Конституционное право Республики Узбекистан. Т.:ТГЮУ, 2016. С-83.

54 Саидов А. Х. Сравнительное правоведение. М: Инфра - 2003 С. 307.

55 Саидов А., Таджиханов У., Одилкориев Х. Основы государства и права. Ташкент : Шарк, 2002.С. 415.

56 Саидов. А. Х. Жахон конституциявий амалиёти ва Узбекистон Республикасининг Асосий Қонуни. – Тошкент, 1992, С-59.

57 Медушевский А. Н. Политические режимы Средней Азии: конституционные реформы в рамках авторитарной модернизации // Сравнительное конституционное обозрение. 2012 (4).

58 Каримов И. А. Правовая гарантия нашего великого будущего. С. 1–2.

導入し、第二次憲法草案は、西洋立憲主義およびウズベキスタンの伝統的要素とのハイブリットな産物となった。

ソ連時代の3つのUzSSR憲法では、立法府である最高会議は、ロシア語の **Верховный Совет** が用いられていたが、第二次憲法草案では、ウズベク語のオリーマジリス (**Oliy Majlis**) という名称を導入した。地方政府である州およびタシケント市の首長も、第二次憲法草案では、ウズベク語のホキム (**Khokim**) と改称した。ソ連時代と比べると地方分権化が進められたが、ホキムは住民の投票によって選ばれるのではなく、オリーマジリスの承認を得て、大統領が任命をする形となった。

伝統的要素の導入という点でもうひとつの特徴的な事例は、住民自治組織であるマハッラ (**Mahalla**) を憲法上明記した点である。マハッラは、伝統的な地域コミュニティの共同体である住民自治組織であり、帝政ロシア時代は、マハッラは、完全に国家から切り離されている住民自治組織であった。ソ連時代に入り、ソ連共産党は、マハッラは社会主義思想に反するため廃止しようとしたが、市民からの圧力を受け、プロパガンダや社会主義社会の実現のために国家組織として利用した。しかし、ソ連時代にマハッラが憲法上の位置づけを得ることはなかった。第二次憲法草案では、マハッラは、伝統的な住民自治組織として憲法上の地位を得ることとなった (第105条)⁵⁹。

3. 1992年憲法委員会の設置によるメンバーのウズベク化

1992年7月2日、カリモフは、1990年憲法委員会のメンバーの一部が、ソ連崩壊にともない母国等に帰国または移住したため、憲法委員会のメンバーを変更した (以下、同委員会を「1992年憲法委員会」という)。1992年憲法委員会は、ソ連時代に連邦中央政府に任命されたソ連軍、KGB、検事総長、内務大臣および最高裁判所長をメンバーから除外した。ソ連崩壊前には、連邦中央政府に任命されたスラブ系の非ウズベク人が、これらの重要な機関を支配していた。1992年までに、カリモフは、ウズベク人を徐々に国家の主要なポストに任命し、1992年憲法委員会のメンバーに含めた。したがって、1992年憲法委員会のメンバーには、スラブ系のメンバーよりウズベク人が多く含まれた。同時に、1992年憲法委員会には、若手官僚も含まれていた。現在のウズベキスタン共和国大統領であるシャフカット・ミルジヨエフ (**Shavkat Mirziyoyev**) も、当時35歳であり、タシケント市の地区長であったが、1992年憲法委員会のメンバーとして選ばれた。1992年憲法委員会には、70名の

⁵⁹ 帝政ロシア時代、ソ連時代、独立後の現在まで、マハッラの主な機能と性格がどのように進化したかについては、Ismatov Aziz & Alimdjanov Sardor “Developmental Trajectory of Mahalla Laws in Uzbekistan; From Soft Law to the Statutory Law” *Asian Law Bulletin* Vol. 4 (December 2018), P.1-28 参照のこと。

メンバーが含まれた⁶⁰。カリモフは、1992年憲法委員会の構成を大きく変更したが、WGの中核メンバーは、ほとんど変更しなかった。

4. 全国的な議論

1992年7月初旬、ウズベキスタン共和国最高会議は、第二次憲法草案を審査した後、全国的な議論のために、第二次憲法草案をウズベキスタン国内の新聞4紙に掲載し、国民に提示した。1992年憲法委員会は、1992年9月下旬から12月上旬の間、個人およびさまざまな機関から第二次憲法草案に対する意見および提案を受け付けることとし、カリモフは、憲法の正当性を得るために、国民から広く意見を募った。

公式統計によると、1992年憲法委員会に7000以上の意見および提案が寄せられた⁶¹。本稿で、憲法委員会に寄せられたすべての意見および提案に触れることは困難なため、その一部を紹介する。例えば、1978年憲法に規定されていた無償の教育、医療および住宅の提供ならびに雇用の保障等の社会権を新憲法に含むよう、多くの意見および提案が寄せられた⁶²。1992年委員会は、これらの社会権を憲法上に規定することは、もはや社会主義思想にもとづく国家ではない上に、移行期の国家の財政事情を考慮して、この要望を満場一致で拒否した。

他には、デモに対する権利は、国家機関からの許可によるのではなく、単にデモの主催者が国家機関に対して通知を行うだけでよいものとする提案がなされた。また、宗教団体の活動に対して、国家が干渉しないことを保障するよう求めた。しかし、全国的な議論の全体を見ると、多くの意見および提案は、非常に単純であり、十分に議論されていないものばかりであった。1992年憲法委員会は、いくつかの軽微な修正を第二次憲法草案に反映させたが、多くの意見および提案は取り入れなかった⁶³。

憲法を「国民の考えにもとづく産物」⁶⁴として正当化することを目的とした全国的な議論であったが、ウズベキスタンという未成熟な社会においては、国民の憲法に対する関心

⁶⁰ Постановление от 2-го Июля 1992 г. Касательно принятия проекта новой конституции и внесения изменений и дополнений в состав конституционной комиссии [新憲法草案の採択および憲法委員会構成の変更に関する決定]. Материалы 10-сессии 12-го созыва Верховного Кенгаша Республики Узбекистан. Государственный центральный архив Республики Узбекистан Фонд-М-69, 1, 3. 1992. С. 61-66. (1992年7月2日)

⁶¹ *Ibid*, В. 272–292.

⁶² Материалы 11-го Пленарного заседания, Государственный центральный архив Республики Узбекистан, 12-й Созыв, 11-я сессия, Фонд-М-69, 1, 154. 1992. С. 43, 99, 139, 150.

⁶³ *Ibid*, С. 74–95.

⁶⁴ Конституция Республики Узбекистан — Основной закон независимого государства. <http://tradeunionict.uz/ru/news/64> (2021年4月22日)

の低さが明らかになった。また、熟慮された分析はなく、全国的な議論では、建設的な意見を集めることはできなかった。第二次憲法草案では、新しい権利をいくつか取り入れたが、それが海外でどのように実践され保護されているのか、ウズベキスタンでどのように今後実践され保護されるのかについての質問はなかった。一方、ソビエトの法実証主義にもとづき、ウズベク人のみに市民権を付与すべきであり、外国人に対しては出入国の自由を制限すべきであるといった意見が寄せられた。司法に関しては、多くの意見および提案は寄せられなかった。宗教の地位を向上させることに関しては、多くの意見および提案を受け付けた。このような傾向は、伝統主義および民族主義の高まりを示している。

5. 1992年憲法の最終議論と採択

1992年12月初旬までの2ヶ月にわたる全国的な議論の後、第二次憲法草案はわずかに修正され、最終的な議論と承認のためにウズベキスタン共和国最高会議に提出された。この最終段階で、草案はいくつかの修正が加えられた。例えば、一部の最高会議のメンバーは、社会権に関する規定の曖昧さを指摘し、医療および教育に関して、無償および有償の範囲を明確にする条項を含めるべきであると提案した。しかし、最終草案では、「すべての者は、専門的な医療を受ける権利を有する（第40条）」と規定するのみで、この意見は取り入れられなかった。ただし、ここに規定される「専門的な医療」とは何か、また現実にウズベキスタンの現状を考慮して提供できるものなのかといった議論はなかった。一方、教育に関する規定は、カリモフからの提案にもとづき、「国家は、無償の基礎教育を保障する（第41条2項）」とし、無償の部分を明確化した。さらに、この段階で、「学校教育に関する事項は、国家の監督のもとに置く（第41条3項）」という規定も加わった。

さらに、最高会議のメンバーのひとり、1978年憲法で公用語であったロシア語を公用語のひとつとする、または他民族間のコミュニケーションのツールとするという規定を憲法に追加することを提案した。1989年10月、ウズベク語が公用語となり、ロシア語は公用語ではなく、他民族間の共通語としての位置付けに格下げされた⁶⁵。第二次憲法草案では、ウズベク語のみを公用語として指定しているが、ウズベキスタンの人口の半数は、ロシア語話者であることを指摘した。しかし、WG議長のウラザエフは、ウズベキスタン国民の社会的価値観を考慮し、ウズベク語のみを公用語とすることで、ウズベキスタンの主権を主張することにより、ロシア語に関する規定を憲法に含めるという提案を拒否した。また、

最終アクセス) ;

⁶⁵ Узбекистон ССР Олий Советининг «Узбекистон ССР Давлат тили хақида» ги қонун ни қучга қиритиш тартиби тугрисидаги қарори // Совт Узбекистони, 1989, 24 октябрь. (1989年10月24日) ;

ウラザエフは、ロシア語のみに憲法上の特別の地位を与え、他のマイノリティの言語を配慮しないことは、諸民族の言語に敬意を表するとした多言語主義（第4条2項）に反する、とも述べた⁶⁶。このように、法的に支配的な国家言語であったロシア語は、新しい1992年憲法により、ウズベキスタンでは外国語となった。

1992年憲法委員会は、全128条のうち約80条の草案を修正したが、多くの条文の内容は、当初案のままであり、単なる文言の修正にすぎなかった。1992年12月8日、ウズベキスタン共和国最高会議は、前文および6章26節128条から構成される新憲法を満場一致で採択した。

6. 憲法起草過程におけるカリモフの役割

社会主義時代の憲法は、国内の議論によってつくられたのではなく、「上（＝連邦中央政府）から与えられた憲法」であった。1992年憲法は、全国的な議論を実施することにより、「国民の考えにもとづく産物」と言われているが、実際には、小人数のWGのイニシアチブによる「上（＝カリモフおよびWG）から押し付けられた」産物である。言い換えれば、憲法に支配的な考えを反映したのは、カリモフおよびごくわずかのウズベク人ソビエト法律専門家のみであった。

カリモフは、第二次憲法草案を、国民投票の前に2度、最終的に採択するためにウズベキスタン共和国最高会議に提出する前に2度、自らの手で修正を加えた⁶⁷。大統領に強大な権限を付与した統治構造は、カリモフの起草過程への積極的な関与によるもので、その特徴は、第二次憲法草案全体に見られる。

例えば、カリモフは、WGが作成した大統領制に関する多くの条文案を自ら修正した。WGの憲法草案には、副大統領職の創設が含まれていたが、それを拒否した。1992年憲法が施行される以前の1991年から1992年の数ヶ月間、ウズベキスタンでは、シュクルロ・ミルサイドフ（Shukrullo Mirsaidov）が副大統領を務めていた。ミルサイドフは、タシケント地方閥（クラン）の指導者であり、政治エリートの信頼が厚かった。カリモフは、ミルサイドフが自身にとって代わり大統領となることを恐れ、副大統領を含む政治的地位を解任した。それ以降、カリモフは、1992年憲法起草過程を含め、副大統領の存在は、自身への脅威となるため、副大統領を置くことを拒否した⁶⁸。

⁶⁶ Материалы 11-го Пленарного заседания, С. 53–54. (Ft. 62)

⁶⁷ Saidov A., P. 208. (Ft. 13)

⁶⁸ Юрий Фёдоров, Узбекистан: нестабильный Фактор Стабильности, Индекс Безопасности 3-4, Том 18, 96, С 102-103.

さらに、カリモフは、東欧において大統領の弾劾制度がうまく機能しなかったという WG の発言に加え、他国での大統領の権威が失墜されるような議会における議論を考慮し、大統領の弾劾制度導入を拒否した。カリモフおよび WG の強い国家の実現に対する大統領に対する強大な権限を付与する重要性を示し、1958 年フランス第五共和政憲法と同様に、大統領は、任期終了後、憲法裁判所の終身裁判官となる条項（第 96 条）⁶⁹を盛り込んだ⁷⁰。

カリモフは、必要な改革を推進するためには、ひとりの強力な指導者が必要であることを繰り返し強調し、第二次憲法草案において、首相の任命・解任、省・国家委員会の設置・廃止、州知事・タシケント市長の任免ならびに憲法裁判所長官・裁判官、最高裁判所長官・裁判官、検事総長および国家保安庁長官候補者の提案等大統領権限を大幅に拡大し（第 93 条）、ウズベキスタンを超大統領国家へと導いた。ロシアにおいても、1993 年憲法の起草過程で、大統領に強大な権限を付与する議論がなされ、エリツィン大統領とロシア最高会議との間で激しい論争があった。それとは対照的に、ウズベキスタンでは、当時の最高議会は、現在の議会と比べると比較的独立性を保持していたにもかかわらず、カリモフおよび WG の第二次憲法草案に対して、最高会議からの大きな抵抗はなかった。

このように、カリモフは、1992 年憲法起草過程に積極的に関与し、多くの WG メンバーは、カリモフが「憲法の中心的な起草者」と述べており⁷¹、1992 年憲法は、「カリモフ憲法」と呼ばれている⁷²。

7. 1992 年憲法の外国専門家の評価—フランス法学者レサージュによる超大統領制の肯定

1992 年憲法起草は、国際機関、アメリカ、イギリス、ドイツおよびフランス等の外国専門家の協力を得て行われた。ウズベキスタン国内で、外国専門家として見解の詳細が紹介されているのは、フランスの公法学者であり、東欧およびソ連の法律・政治事情に精通していたミシェル・レサージュ（Michel Lesage）パリ第一大学教授である。レサージュは、1992 年憲法の起草支援をするとともに、最終草案に対する意見を求められた。レサージュは、1992 年ウズベキスタン憲法のみならず、1993 年ロシア憲法および 1993 年キルギス憲法の

⁶⁹ 現在は、第 97 条。

⁷⁰ 本条項は、2003 年の憲法改正により、大統領は憲法裁判所の終身裁判官ではなく、元老院（上院）の終身議員となることとなった。

⁷¹ Saidov A., Tadjihanov U. *Islom Karimov Konstitutsiya to'grisida: O'zbekiston Respublikasining Konstitutsiyasi O'rganuvchilarga Yordam*. Tashkent : Akademiya, 2001. P. 156.

⁷² Левитин Л. *Первый президент Республики Узбекистан*. Ташкент : Узбекистон, 1997. С. 239–240.

起草にも関与した⁷³。レサジュの見解のみが詳細に紹介されているのは、レサジュは、1992年憲法における大統領の広大な権限を積極的に評価した唯一の外国専門家であったためであると考えられる。

レサジュは、最終草案に関して、権力分立に関する課題を指摘した。例えば、立法府であるオリーマジリスは、内政および外交方針を決定する権限が付与されていた（第77条(7)）⁷⁴。レサジュによると、これは、立法府による行政府の監督（**Парламентский общий контроль**）であり、オリーマジリスが行政府の権限を制限または妨害する法律を採択しないようにする必要があった。立法府と行政府が互いに干渉し合わない非干渉の原則は、立法府および行政府の間で起こり得る対立を回避するのに有益であると述べた。具体的には、レサジュは、大統領が省・国家委員会・その他の国家行政機関を設置・廃止し、事後にオリーマジリスの承認を得るためにこれに関する大統領令を提出することを可能にする条項を指摘した。これにより、大統領は強大な権限を持つことになるが、省・国家委員会・その他の国家行政機関の設置・廃止は、大統領の権限であり、オリーマジリスは行政府を監督すべきでないと主張した。レサジュは、ソ連崩壊後新たに独立したウズベキスタンは、経済停滞および犯罪の増加といった課題に直面しており、強力な大統領が政治上必要であったということを理由としてあげた⁷⁵。レサジュは、ロシアを含むその他の旧ソ連共和国においても、同様に強力な大統領の必要性を訴えていたが、ソ連崩壊後の混乱期に、恣意的な公的機関および犯罪による脅威の高まりから市民を保護するための前提条件として、強力な大統領が少なくとも移行期の憲法には必要であると主張した⁷⁶。

ウズベキスタンおよびフランスに共通する点として、大統領および首相の双方を置いている点があるが、レサジュは、この双方が存在することにより、協働し、想定される対立を軽減できると考えた。具体的には、大統領は、首相を長とする内閣との会合の際に、議長を務める権限を付与された（第97条）⁷⁷。これは、1958年のフランス第五共和政憲法をモデルにしたもので、大統領と首相の間のより緊密で効果的な相互作用を前提としていた。レサジュは、オリーマジリスの中で克服しがたい対立が生じ、正常に機能しなくなる危険がある場合、またはオリーマジリスが憲法に反する決定を繰り返し採択する場合には、大

⁷³ Митюков М.А., Рождение Конституции России: Конституционное Сопровождение 1993 года, Проспект. Москва, 2015, С-18.

⁷⁴ 現在は、第78条1項(4)。

⁷⁵ Узбекистон Конституциясининг Лойхаси Француз Хукукшуноснинг Назарида (Проект Конституции Узбекистана глазами Французского юриста Интервью Акмало Саидову), Газета Халк Сузи, 1992, 3 декабрь.

⁷⁶ Четвернин В. А., Конституция Российской Федерации: Проблемный Комментарий, Центр Конституционных Исследований Московского Общественного Научного Фонда. Москва.-1997. Предисловие.

⁷⁷ 現在は、第93条(16)。

統領にオリーマジリスを解散する権限が付与された第 94 条⁷⁸についても評価した。フランスにおいては、第五共和政までは、立法府に対する脅威であるとして、大統領に解散権限が付与されていなかったが、1958 年の第五共和政憲法でこれが実現した。レサジュは、1992 年憲法におけるウズベキスタン大統領の「主要な政治家、国家元首、国家の象徴および市民の安全の保証人」としての役割を強調し⁷⁹、超大統領制を肯定した。

V. おわりに

1990 年、ソ連大統領であったゴルバチョフは、ソ連を維持しつつも、各共和国の権限を拡大することを目的として、新連邦条約を創設することを提案した。この上からの提案である新連邦条約にしたがって、UzSSR を含む各共和国で新しい憲法を起草する必要性が生じた。新しい憲法の起草のために、UzSSR 最高会議は、カリモフ大統領を議長とする 1990 年憲法委員会を設置し、その中に WG を置いた。1991 年 11 月までに作成された第一次憲法草案には、社会主義的および非社会主義的要素が含まれており、ソ連の中に UzSSR が存在することを前提としていた。カリモフは、当初第一次憲法草案に同意していたが、1991 年 12 月にその最終草案を確認した後、突如として拒否した。1991 年 8 月以降、新連邦条約に関する交渉は徐々に停滞し、カリモフはソ連の将来とそこでの UzSSR の位置づけに関する見解を徐々に変更し始めた。憲法委員会の議事録等歴史的な文書を分析すると、カリモフは、政治的独立をめざしながらも、経済的連携の継続を主張した。しかし、1991 年 12 月、ロシア、ウクライナおよびベラルーシの指導者たちがソ連を正式に解散させると、ウズベキスタンは独立することとなり、新憲法起草等、これまで経験したことのない新たな課題に対処しなければならなかった。カリモフは、初めて自ら憲法起草を経験したため、西側自由主義諸国の憲法を参照した。権力分立および政治多元主義等自由主義的思想は、カリモフが目指した超大統領制およびウズベキスタンの伝統主義的思想とは相容れないものも含まれていたが、新憲法にその要素を取り入れた。それは、国際社会に対して、ウズベキスタンが民主主義の価値観を尊重する姿勢を示すためであった。

カリモフは、憲法委員会を再構築し、「国民の考えにもとづく産物」として正当性を得るために全国的な議論を開始したが、ウズベキスタン社会はまだ未成熟であるということ

⁷⁸ 現在は、第 95 条。

⁷⁹ Узбекистон Конституциясининг Лойхаси Француз Хукукшуносинг Назарида, 1992, (Ft. 75)

を示した。1992年憲法は、むしろ、カリモフによって監督されたごく少数のソビエト法学者によるWGの産物であり、WGのメンバーが1992年憲法の起草の上で重要な役割を果たした。カリモフのイニシアチブにより起草された1992年憲法は、大統領に強大な権限を付与し、ウズベキスタンは、超大統領国家として歩むこととなった。

これまでのウズベキスタン憲法制定過程を論じた研究は、1992年憲法は、西洋自由主義的思想を導入し、全国的な議論を通じて、「国民の考えにもとづく産物」である評価とされていた。しかし、本稿では、この評価を批判的に論じ、伝統主義的価値にも回帰し、カリモフおよびカリモフに指導された少人数のソビエト法学者による産物であることを示した。1992年憲法制定から30年が経過するが、1992年憲法の中に混在する自由主義、伝統主義および超大統領制は、実際には共存することはできない。2021年11月、ミルジョエフ現大統領は、大統領就任演説において、憲法改正の必要性を述べた。具体的な改正案についてはまだ明らかにされていないが、伝統的な家族観等伝統主義的価値が憲法に取り入れる可能性がある。1992年憲法制定過程を参照しながら、これらが西洋自由主義的思想と共存できるものなのか注視していきたい。